

小路周辺の史跡と昔の風景

いくたよろず 生田萬の墓碑
MAP ㉑ a-5

市指定文化財：昭和48年8月1日指定

⑩金蔵小路 ⑪宮川小路

生田萬は上州館林の藩士で、天保7年(1836) 柏崎の山田小路に桜園塾を開き和学を教えた。天保8年、連年の飢きんのため米の値段は高騰し、悪徳商人や役人の無策に腹を立て、同志6人と柏崎陣屋に斬り込んだが、敗れて海岸で自害した。

ふくごんいん 福蔵院
MAP ㉒ c-5

⑩山田小路 ⑪星野小路

一階本堂の天井絵

大正7年に建てられた曹洞宗福蔵院は平成19年の中越沖地震で全壊となったが、平成22年夏に再建し復興を遂げた。本堂を飾る天井絵は檀家に加えて一般市民から描き手を募り、計86枚の天井絵が飾られている。弘法大師の作とされている「延命子安地藏尊」があり、安産のご利益がある秘仏で住職一代一回のご開帳となっている。

じょうふくじ 常福寺
MAP ㉓ b-6

⑩権現小路

常福寺には、その末寺である釈迦堂にあった「良寛図」(柏崎市指定文化財)が保管されている。

しゃかどう 釈迦堂跡
MAP ㉔ a-7

⑩権現小路 ⑪奈里小路

天保3年(1832) 創建、加藤与市母がお堂を建てる。貞心尼は良寛の没後、ここにあった釈迦堂に住み、良寛の歌の整理をしていたといわれている。

ふるさと人物館
MAP ㉕ a-5

⑩金蔵小路 ⑪宮川小路 ⑫御蔵小路

柏崎・刈羽地域の産業や文化の礎を築いた先人110人の事績・著書・遺品・その他資料を展示している。①産業・経済の礎を築いた人々 ②社会の発展に尽くした人々 ③学術・教育・スポーツに生きた人々 ④芸術・文化に生きた人々 ⑤幕末の姿

さんがいぶし 三階節(専福寺)
MAP ㉖ a-5

⑩宮川小路 ⑫御蔵小路

全国に知られている三階節は、十代將軍徳川家治の時代に盆踊り唄として流行した。専福寺三代目のお坊さん「しげさ」の法話は大変うまく、近くの人々が説教のありがたさを讃えたのが始まりといわれている。その唄として、しげさ しげさと恋にする しげさ しげさの御動化 山坂越えてもまいいりたやが挙げられている。

えんまどう 閻魔堂 MAP ㉗ a-8

市指定文化財 昭和48年8月1日指定

⑩宮小路 ⑪伝助小路

現在地は町の東にあった「木戸」の門外で、旅人や浮浪者の宿に利用されたといわれている。現在のお堂は、明治29年(1896)に4代目篠田宗吉によって建てられた。6月14日～16日に縁日が開かれている。(えんま市)



きょうはくえん 喬柏園(旧柏崎公会堂)
MAP ㉘ c-2

①天王小路 ②ごほう小路 ③牟小路

大正10年(1921)、シンガポールで越後屋を営んで成功した高橋忠平が老後住むために建てた住宅である。白亜の殿堂と呼ぶにふさわしい鉄筋コンクリート造りで、当時の柏崎には珍しいものであった。国登録有形文化財：平成19年7月31日登録

よとくじ 永徳寺
MAP ㉙ c-2

⑩たや小路 ⑪なまね小路 ⑫長井小路

今から600年前の永徳年間の開山であり、柏崎きっての古いお寺である。また、松平定信の筆になる寺額があり、寛政12年松平定信はその著集古十種の中で、小野道風朝臣の真蹟として紹介している。

ほしのとうべえ 星野藤兵衛の墓(妙行寺)
MAP ㉚ a-4

⑩住吉小路 ⑪納屋町小路 ⑫御米小路

豪商で、勤皇の士といわれた星野藤兵衛は、北陸戊辰戦争の際、新政府軍に働きかけ、柏崎を戦火から救うため尽力した。鯨波戦争後、新政府軍に働きかけ、妙行寺に本陣を置いた。妙行寺には、藤兵衛をはじめ加賀藩士の墓や駐屯兵の落書きが本堂に残されている。



ねまり地藏
MAP ㉛ c-2

⑩遊行小路 ⑪たや小路 ⑫なまね小路 ⑬長井小路

延命地藏菩薩で高さ184cmの豪快な造りで「火除け地藏」の別名がある。長年の飛砂で足元が「根埋り」状態、跌座を組む様子から「ねまり」地藏という。

たちじぞう 立地藏
MAP ㉜ c-2

⑩遊行小路 ⑪たや小路 ⑫なまね小路 ⑬住吉小路

薬師参尊像脇侍の左が日光菩薩、右が月光菩薩。三尊が一石に彫られた薬師像は他に類がない。胸元には薬壺を持っている。立地藏の伝説から、腰の病氣にご利益があると参詣者が増え、花柳界の人々の信仰も篤かった。

もんこうじ 間光寺
MAP ㉝ c-4

⑩土粉小路 ⑪諏訪小路

間光寺の鐘には、前白河藩主の松平定信(楽翁公)の直筆からとりいれられた『大無量寿経下巻』の一節が刻まれている。

へんしょうじ 遍照寺
MAP ㉞ c-4

⑩諏訪小路

この経は、紺紙に金銀文字にて交互に書きつけたもので、通称、中尊寺経といわれるものである。寺伝はないが、裏に十九半とあるのは、紙数を示し、表紙及び見返しは金泥書、特に見事な巻留金具を現存し、平安時代の藤原清衡経といわれているものの一環かと考えられる。

てんのう 天王小路

天王小路は、西本町3丁目の西洋軒の角を入り、つき当たって左に折れる道である。八坂神社の前身である天王社に通じる道であったためこの名がつけられた。

ごほう小路

ごほう小路は、喬柏園の向かいから鶴川にかかる水道橋に向かう。かつてこのあたりは五坊町、御坊町といわれていたため、この名がつけられた。

らう 牟小路

牟小路は、「らうや小路」ともいい、本町通りの喬柏園西側を旧納屋町に向かう道である。かつてこの奥に半獄があり、そこに通じる道であったためこの名がつけられた。

ゆきよう 遊行小路

遊行小路は香積寺、本妙寺の前を通り、一念寺に向かう道という。かつて遊行上人がこの道を通ったため、この名がつけられた。

なまね小路

なまね小路は、本町通りから高木医院に至る道である。かつてこの小路に、なまねというあざなで呼ばれる人物が住んでいたため、この名がつけられた。

ながい 長井小路

長井小路は、本町通りの立地藏のむかい、西本町2丁目にある道である。本陣長井家があったので、この名がつけられた。

ひろ 広小路

広小路は、国道352号の明蔵寺付近から旧魚市場に至るまでの道という。柏崎で最も早く市・店の開けた所である。「広小路」と名はついているが、かつてはあまり広くなかったという。

すみよし 住吉小路

住吉小路は本町通りの石井神社の角から西港町に向かう道と言った。石井神社は寛永11(1634)年に改称するまで住吉大明神と呼ばれていたことからこの名がつけられた。

なやまち 納屋町小路(郵便局小路)

納屋町小路は、西本町郵便局の角から西港町と東港町へ通じる道という。かつては納屋町といわれ、そこに通じる道であったためこの名がつけられた。

かぼうせん 火防線小路

火防線小路は、本町通りのいづみや食堂の角から小熊写真館に至る道という。その名の通り、防火対策のために作られた小路である。

おこめ 御米小路

御米小路は本町通りから妙行寺に向かう道である。小路名の由来については記述が見当たらない。

どぶん 土粉小路

土粉小路は「ドブ小路」ともいい、本町通りの文化書院の角から旧旭町1丁目に向かう道という。かつてこの小路は五分小路と呼ばれていた。

すわ 諏訪小路(けんどん屋小路)

諏訪小路は、大光銀行の角を旧市道64号に向かう道という。この奥に柏崎神社の前身である諏訪社が建てられたため、この名がつけられた。後に、小路の入口に「けんどん屋」というどん屋ができたので、別名を「けんどん屋小路」ともいった。

かなくら 金蔵小路

金蔵小路は、本町通りの柏崎日報社の角から浜に向かう道という。かつて近くに御蔵蔵があり、その通行路であったことからこの名がつけられた。また、浄願寺の近くに半獄があったことから「牟小路」とも呼ばれた。

～砂丘こそ母なる大地～

柏崎は鶴川、鯖石川の二つの流れの狭間、砂丘の上に生まれた。夕日の美しい日本海を臨み、米山、黒姫、八石山の山並みに抱かれ、柏の木が茂る原野だった砂丘こそ柏崎の母なる大地の由縁です。鶴川河口付近から始まったまちづくりは、徐々に東へと進み、江戸時代には、北国街道の宿場町、港町として栄え、縮布商が活躍する商人のまちとして発展してきました。商人でにぎわう街道の外側には住宅が、さらに多くの社寺が取り囲む形態をなし、街道を縦横に結ぶ「小路」が、今もなお、その歴史を物語っています。このマップでご紹介する小路は、江戸時代に製作された「柏崎町古絵図(マップ表紙)」にも記されています。縁から今につながる「街なか小路」には、歩いてこそ発見できる、そこだけの魅力や感動が待ち受けています。皆さんも「街なか小路ガイドマップ」を手に、柏崎町の温故知新の旅に、どうぞお出かけください。

まち歩きをもっと楽しみたい方へ

街なか史跡ガイドが案内できます。



- 料金** 無料 途中、昼食をはさむ場合はガイドの昼食代の負担をお願いします。
- 住所** 【事務局】 柏崎市産業振興部観光交流課 柏崎市中央町5-50
- 申込み** 1週間前までに要予約 TEL: 0257-21-2334

※貞心尼史跡ガイドもいます。貞心尼ゆかりの地をガイドの解説とともに巡りたい方も、是非お気軽にお問い合わせください。

